

ハイブリッドBRAF遺伝子検査

produced by エアデックmini株式会社

悪性度が非常に高いことが知られている「**犬の泌尿器系がん**」を対象とした遺伝子検査です。BRAF遺伝子という細胞間のシグナル伝達に関わる遺伝子の変異の有無を判定します。そして、個々に見合った抗がん剤を見つけていくために、抗がん剤スクリーニング検査を実施いたします。



こんな患者さんにおすすめ

- 前立腺がんや移行上皮がんを疑う症状や所見がある。
 - 細胞診や生検で診断を受けているが、確定診断として検査をしておきたい。
 - 使用している薬剤について、まだ継続が可能か現在の感受性を知りたい。
 - 使用している薬剤で効果があまり認められないため、別の薬剤の感受性を知りたい。
 - 抗炎症薬で治療中だが、今後抗がん剤の使用を検討している。
 - 「泌尿器がん」に罹患していて、現在抗がん剤での治療を行っている。
 - 「泌尿器がん」を疑う症状・所見がある。
- 例: 何回もトイレに通う、血尿、超音波検査で膀胱に腫瘍があった、など。

- 治療方針を考えたい。
- 使用している薬剤について、現在の効果を知りたい。
- 別の薬剤の効果も知りたい。
- 抗がん剤の治療を視野に入れている。

\\ いずれか一つでも当てはまる場合は、以下の検査をおすすめいたします。 //

■ BRAF遺伝子検査

■ 細胞診検査 ■ 病理組織検査

確定診断が行われていない、泌尿器がんを疑う症状・所見がある場合はこちらから検査をしてください。

■ 抗がん剤感受性検査

- ・泌尿器系がん対応2剤: ピンブラスチン、ミキサントロン
- ・消炎剤併用療法: +ピロキシカム、+フィロコキシブ
- ・その他抗がん剤: ラパチニブ、ソラフェニブ、カルボプラチンなど
- ・抗がん剤10剤スクリーニング検査

弊社でこの検査を行うメリット

- もし「BRAF遺伝子変異あり」という結果の場合、同時に送付したサンプルを用いて**抗がん剤感受性検査が可能**。
- 悪性度が非常に高い犬泌尿器がんに対して、**迅速かつ適切な治療の開始が可能**になります。

注意

・「BRAF遺伝子変異なし」の判定の場合でも、変異のないタイプの泌尿器がんがございますので、腫瘍性増殖が否定されるわけではありません。定期的な観察をお願いいたします。
・検体量が足りない場合、検査不能になる場合がございます。採材方法等詳細はホームページをご覧ください。

ハイブリッドBRAF遺伝子検査に関するお問合せはこちら

電話

042-707-7674

メール

mini@airdec.jp

24時間OK

お問い合わせ
専用フォーム▶▶

